



IUFRO-J NEWS

No. 65 (1998.12) —

2000年マレーシアにおける第21回IUFRO世界大会プログラム¹⁾

—論文およびポスター募集—

IUFRO世界大会, CSC委員長 Eric Teissier du Cros
(IUFRO-J事務局訳)

1. 科学プログラム

第21回IUFRO世界大会のテーマ「森林と社会: 研究の役割」が世界大会の会議及び巡検において展開される。科学プログラムの構成は大会科学委員会 CSC (Congress Scientific Committee) による特別本会議, IUFRO各部門と作業部会による科学分科会, IUFRO各部門と研究グループと作業部会によるグループセッションから成っている。

全ての室内会議は世界の名士による基調講演から始まり, それぞれの基調講演は週の間の招待論文による分科会により例証される。

全てのセッションは表-1に示される当大会の主題に収めらるものである。

会議中, 参加者同士の討論を奨励するためIUFROのグループセッションの主催者は以下の事項を提案する。

表-1 会議課題

大会における数多くのセッションは熱帯の問題に集中している

A 自然資源の持続的管理

- A.1 水と森林
- A.2 火災と森林
- A.3 森林の種資源の管理と保全
- A.4 森林の持続性における森林害虫と大気汚染の影響
- A.5 持続可能な森林管理と生産性
- A.6 熱帯における持続可能な森林管理
- A.7 景観の修復における森林の役割

B 森林と社会の必要性

- B.1 木材生産
- B.2 非木材生産
- B.3 公益的機能

—少数の総合的論文

—パネルディスカッション

—ポスターセッション

—ビジネスディスカッション

—上記の組み合わせ

全てのセッションでの結論は, 当大会のとりまとめおよび21世紀はじめにおける森林研究の将来の発展のための勧告という形で閉会式に反映される。

当大会ではポスターセッションに特別の重点が置かれる。これまでのIUFRO大会に比べ, ポスターの数は同時進行の討論の数を減少させる必要性のため飛躍的に増加する。その結果, 論文の受付数は少なくなるであろう。幾つかのグループ・セッションの主催者はポスターの付近でパネル・ディスカッションを開催することになる。ポスターのうち8つが選考され閉会式において表彰されることになる。

B.4 社会の必要性のための技術評価

C 環境と社会の変化

- C.1 環境変化と森林
- C.2 社会変化と森林
- C.3 環境と都市社会を含む社会との間の相互作用
- C.4 森林環境と生態科学の新分野

D 森林管理における文化的多様性

- D.1 アグロフォレストリー
- D.2 森林と山岳開発

E 森林と社会の世界的未来像

- E.1 森林科学と森林政策の相互作用
- E.2 ネットワークと国際協力
- E.3 東南アジア・ラテンアメリカ・アフリカの熱帯森林資源管理の地域的シナリオ

科学プログラムは大会科学委員会 CSC (Congress Scientific Committee) により準備される。詳細は表-2 参照。委員会への連絡は実際の組織上の問題と登録に限ること。

表-2: CSC 連絡先

Congress Scientific Committee
IUFRO Secretariat
c/o Federal Forest Research Institute
Seckendorff-Gudent-Weg 8
A-1131 Vienna, Austria

Congress web site :
<http://iufro.boku.ac.at/congress/csc/>

E-mail : iufroxxi.csc@forvie.ac.at
Fax : +43-1-8779355
Tel : +43-1-8770151

2. ポスターと論文

2.1 一論文およびポスター要旨提出の手続き

一般的ルールにのっとり統合的論文が歓迎される。本会議のトピックに関する論文はポスターとなるだろう。要旨の書式は表-3 のとおり。

表-3: 要旨の書式

題名:
著者:
住所, ファックス, 電話, ウェブアドレス
400-600 語のテキスト (英語が推奨されるが他の IUFRO 用語であるフランス語, ドイツ語, スペイン語も受けつける。)

- ☐ テーマ, サブテーマの記号と数字 (表-1)
- ☐ 部門または作業部会 (表-4)
- ☐ CSC に依頼されれば論文を準備するが, そうでない場合は,
- ☐ 論文をポスターとしたい。

要旨を送るにあたっては以下の優先順の方法に従うこと。

(1) CSC のウェブサイト, (2) E-mail, (3) PC (DOS) 形式のディスクに Word または WordPerfect 形式の文書²⁾, (4) Fax (5) 郵便, (2) E-mail のオプションとしてテキスト形式 (text) または RTF 形式 (rich text format) の添付書類も受付可能。

受理された場合, 論文およびポスターは 98 年 10 月に配布予定の IUFRO News 4³⁾ の Information Package の書式に従って作成すること。

口頭発表の著者は標準サイズのスライドと OHP が使用可能。LCD のような機材を使用したい場合は CSC の指示に従うこと。著者は Information Package の例に従ってスライド・OHP を準備するよう奨励する。

表-4: IUFRO 各部門および作業部会

部門

1. 造林
2. 生理学, 遺伝学
3. 森林作業と技術
4. 調査, 成長, 収穫と定量的, 経営的科学
5. 林産
6. 社会, 経済, 情報, 政策科学
7. 森林保健学
8. 森林環境

作業部会

1. 環境変化
2. 持続可能な山岳開発と森林
3. 持続可能な森林管理
4. 森林の種資源の管理と保全
5. 水と森林
6. インターネット資源 (IUFRO Net)

2.2 参加者の手続き

-1999 年 1 月 31 日迄に, 査読者による選考のため著者は要旨を CSC (表-2) まで送ること。論文またはポスターは表-2 に示した当会議のテーマまたはサブテーマに関連していること。著者は要旨が関連するテーマまたはサブテーマおよび部門または作業部会を示すこと。

-1999 年 5 月 31 日迄に, CSC は選ばれた著者に対し, (1) 副本会議での正論文 (2) グループセッションでの正論文 (3) ポスターを準備するよう連絡する。

-1999 年 10 月 31 日迄に, 著者は正論文の草稿またはポスターの修正稿を CSC に送ること。

-2000 年 1 月 31 日迄に, 著者は査読委員会から改善・修正意見を受け取る。

-2000 年 3 月 31 日迄に, 正論文の査読・編集・修正およびポスター要旨の修正は印刷準備のため終了する。会議のプロシーディングと IUFRO の Web サイトに (1) 副本

会議の論文(2)グループセッションの要旨(3)ポスター要旨が掲載される。基調講演は会議後の会議報告およびIUFROのWebサイトに掲載される。

グループセッションの主催者はグループセッションの論文を論文誌に掲載するよう(出版元と)交渉することが望まれる。

3. 展 望

部門、研究グループ、作業部会の主催者は次回のIUFRO理事会(コスタリカ、1998年9月開催)の後、セッションの組織手続きについて連絡がある。

既知のとおり当会議の科学プログラムは非常に熟成されたものであるが、それは参加者が確固たる科学的事実と結果をもとに臨むことにかかっている。CSCは次の千年

間に望む会議の成功を達成はあなたの貢献にかかっていると信ずる。

<IUFRO-J事務局注>

- 1) "Scientific Programme at the X XI IUFRO World Congress 2000 in Malaysia
CALL FOR PAPERS AND POSTERS"
IUFRO News Vol. 27, 1998 Issue 3
- 2) Word, WordPerfectとも日本語版と英語版では保存ファイルの書式が異なるため、CSC側で読めない可能性がありますのでご注意ください。
- 3) 11月現在 News Issue 4はJ事務局に未着の状態です。
- 4) Congress Web Siteをご参照ください。

会費納入・研究者登録のお願い

IUFRO-Jの活動は会費収入で運営されております。健全な会の運営のために、会費納入をお願いいたします。

A, B会員におかれましては、会費納入と合わせて研究者(会則第5条)、連絡員(付則1)の登録(事務局への連絡)をお願いいたします。

納入方法

郵便局振込の場合

郵便振替口座: 00190-3-159224

名 義: IUFRO-J事務局

銀行振込の場合

関東銀行牛久支店 普通預金口座 697583

名 義: IUFRO-J事務局 大貫仁人

注意: - (ハイフン)をお忘れなく

事務局としては、できるだけ郵便振替を利用いただけると助かります。

MEXFT '98 (林業用語における多言語と専門家協力) 参加報告

東京大学 露木 聡

はじめに

チューリヒ駅から乗ったタクシーは、どんどん郊外へ走ってゆきます。チューリヒ湖を見おろす丘を越えて、どこまでゆくのかと思っていると、田園地帯の道端に Kappel am Albis の標識が立っていました。曇っていた空から雨粒が落ちてくる中を、タクシーはなぜか古い石造りの修道院のようなところに到着しました(写真-1)。宿泊も同じところだと聞いていたので、てっきり会議場かホテルだろうと想像していた私たちは、めざす Haus der Stille (静寂の館) が以前は本当に修道院だったことを後から知って驚きました。

MEXFT '98 (Multilingualism and Expert Cooperation in Forest Terminology) は、1998 年 6 月 7～9 日にスイスのチューリヒ郊外にある Kappel am Albis で開催されました。松本光朗氏(森林総合研究所)と筆者はこの会議に日本からの代表として参加することになりました。しかし、IUFRO の活動に疎い筆者にとって

は、このワークショップが IUFRO が現在進めている SylvaVoc プロジェクトの一環であることは想像が付きましたが、いったいどのような内容の会議なのか判然としないまま現地へ到着してしまったわけです。IUFRO-J News 63 号に宇都宮大学の内藤先生が TFM 編集委員会参加報告をされていますが、ほぼそれだけが頼りという状態でした。

MEXFT '98

初日はレジストレーションと Ice Breaker のみで、参加者は 24 名というこぢんまりしたものであることがわかってきました。スイス 8 名、オーストリア、ドイツ、日本、フィンランド、フランス、ルクセンブルグ各 2 名、アメリカ、エジプト、タンザニア、中国各 1 名というのが出席者の顔ぶれでした。内藤先生の報告では使用言語がドイツ語であったというので戦々恐々としていましたが、今回はほぼ英語で行われややほっとしました。ただし、次に述べますが参加者のほとんどが multilingual の専門家ということもあり、英語の質問や回答がいつの間にかフランス語となり、ドイツ語となり、また英語になるという、めくるめく時間もありました。

翌日からの会議(写真-2)では、特に SylvaVoc について議論を行うということではなく、参加者がこれまで経験してきた主に森林科学に関連する用語辞書や 2 カ国語、3 カ国語などの多国語辞典編集における問題点や事



写真-1 ワークショップ会場となった Haus der Stille



写真-2 ワークショップのようす

例などの報告が中心議題でした。日本にいる筆者にとっては、多言語辞典といっても日本語と英語、せいぜいドイツ語、フランス語くらいしか思い浮かびませんが、さまざまな言語が日常的に入り乱れているヨーロッパでは、複数言語間の翻訳という作業が、何をするにも必要となっているのだということを、今回の会議で実感することができました。EU 統合が間近なヨーロッパでは、この翻訳ということが重要視されていて、専門家も数多く、今回はヘルシンキ大学翻訳学科の女性も参加していました。今回の特徴としてあげられるのは、森林科学を専門としていない、言語学や翻訳のプロフェッショナルの参加者が数名あったことです。

・ワークショップ

主な報告は以下の通りです。

Change in the forestry profession and its effects on forest terminology : John Helms (U. S. A.) 報告者は現在行われている Ford-Robertson 林業用語辞典改訂版の編集者で、その作業の概要の報告。旧版の用語を検討し、その削除や追加を行った。また、用語の定義についても、時代や技術の変化を反映し、見直しを行った。旧版の定義は "timber dominant" だったが、改訂版は "use" に力点が置いてあると説明があった。また、定義の内容は最近の北米での用法を取り入れたものになっている。たとえば、"forest" については森林だけでなく、小川や魚、草地や野生生物などの ecosystem を含めた全体として定義しているので、出版されると議論が起きるかもしれない。出版は9月半ばで、時期未定だが CD-ROM 化も予定し、WWW での公開も検討中。

Different societies-different concepts : difficulties in compiling Finnish-Russian forestry dictionary : Inkeri Vehmas-Lehto (Finland) フィンランド語—ロシア語の林業用語辞典を作成した事例報告。両国間の森林・林業に関する考え方や制度、技術の相違から、翻訳できない用語が多数あり、作業が難航している。辞典には用語だけでなく、その定義、解説、両国間でのコンセプトの違いなどが盛り込まれる予定。

Problems and solutions to manage non-western languages in a multilingual database and in the WWW : 松本光朗 (日本) ヨーロッパやアメリカなどの1バイト系文字セットを扱うコンピュータで、漢字などの2バイト系文字セットを利用するための技術的な展望と解決法についての報告。IUFRO が作成中の Forest Terminology Database (FTD) について、WWW で日本語を利用するため以下の4つの方法を提案した。(1) 文字を画像として処理する方法、(1') 文字を自動的に画像

に置き換える Delegate Server を活用する方法、(2) 日本語表示用 Java アプレットと Unicode を使用する方法、(3) 最近公開された多言語対応の WWW 言語 HTML 4 と Unicode を利用する方法。Database の1, 2年後の完成を考えれば HTML 4 の普及を待って (3) の方法を採用するのがベストと考えられる。いずれの方法でもデータベース部分は共通なので、まずその開発を先行し、完成時に公開方法を判断するのが適切である。

Terminological activities at IUFRO : Michele Kaennel Dobbeltine (Switzerland), Renate Prüller (Austria) IUFRO での SylvaVoc プロジェクトの紹介。プロジェクトは第1期で、現存する森林科学関連の用語に関する出版物のリスト (meta-information) 作成と TFM (Multilingual Terminology of Forest Management Planning) 発行、terminological database 作成を行っていることが説明された。また、Network of Terminological Experts in Forestry も組織され 100 人以上が登録されているが、これまでの問い合わせは5件であったことも紹介された。さらに、FTD プロトタイプのデモンストレーションも行われた。現在は英独仏西伊日を対象とした Microsoft Access 上のデータベースとして開発中。パソコン上のアプリケーションとして動作し、まだインターネットとの関連はなく、現状ではアルファベットのみを表示。データベース構造は International Society of Environment Protection で開発したものを基礎としているが、当日はデモ用に開発したプログラムとわずかなテストデータを使用した。なお、SylvaVoc プロジェクトには、日本の ODA による援助が行われている。

Experiences in the compilation of a Chinese-English forestry terminology : Kang Dingzhong (China) 中英林業用語辞典の出版に関する報告。収録用語数は4万語であるが、単語のみで定義はない。

以上を含めて16件ほどの報告が行われました。データベースを WWW や CD-ROM で公開している事例紹介や作成過程で起こる問題の報告も数件ありました。また、森林科学関連だけではなく、公用語が4カ国語もあるスイスでの多言語データベースについての紹介、ヨーロッパにおける用語クリアリングハウスである EAFT (European Association for Terminology) の紹介といった報告もあり、最初にも述べたように、多言語間の翻訳がいかに重要なものであるかを知ることができました。

・討論

報告は建物の中の一室で行われましたが、wrap-up

discussion は場所を移して暖かな日差しが気持ちのよい中庭の木陰で行われました(写真-3)。いくつか話題となったことがあるのですが、その一つは terminology, vocabulary, glossary of terms の違いについてです。言語の違いと、考え方 (concept)・環境 (ecosystem)・制度 (system) の違いが不可分に結びついていて、同じ言葉 (用語) についてもさまざまな定義があります。たとえば、ある言語である用語の定義を行う場合、結局その言語が使用されている地域での定義とならざるを得ないことになります。フィンランドの方がロシア語との対応関係で苦労しているという報告を紹介しましたが、そのほかの報告者でも同じ苦労を訴えているものがいくつかありました。とはいえ、英語の場合はちょっと事情が違うのではないかと、という発言もありました。つまり、事実上世界の公用語となっている英語については、かなり一般的な定義を行う必要があるのではないかとことです。これは、改訂作業進行中の Ford-Robertson 用語辞典がかなり「革新的」であるという報告にも関連するのですが、これについては報告者の Helms 氏が、改訂版の定義は北米を対象としたもので、必ずしも一般的 (全世界に通用するもの) ではないと明言していました。

編集が終了した TFM でも日本側の担当者が苦労されているのを見ていたので想像がつくのですが、多言語の用語辞典を作る場合、各国語での定義をそのまま翻訳しても、他の言語にとっては意味をなさないことが起こり得ます。森林・林業のように、地域の特性と不可分に結びついている場合は、一方の言語には全くない概念というのが存在して当然です。そこまでではなくても、同じようだが微妙に違うといった場合、どこまで説明すればよいのか、違いを明らかにすればよいのだろうか…。単に用語辞書を作ればよいのだろうと高をくくっていた筆者にとっては、多言語の問題がここまで深いものであるということに、遅まきながら気づかされた次第です。



写真-3 Wrap-up discussion は中庭の木陰で

もう一つの話は、辞書やデータベースの編集自体についてです。図書データベースというのがあります。これは電子版標準フォーマットがかなり共通化されているので、ネットワーク化やデータの再利用が容易で、大がかりな世界的ネットワークが構築されているそうです。それに対して、terminology についてはようやく電子版が作られ始めたところで、フォーマットの標準化にはほど遠い段階なのだそうです。したがって、今後の Forest Terminology の開発にあたっては、データのリンク、import/export ができるような形にし、またすでに作成された辞書データの利活用 (re-use) を図るべきであり、このワークショップをきっかけに協力しよう、ということになりました。

ワークショップの議題とは少し異なるのですが、wrap-up discussion の最初に事務局が持ち出した話題は、IUFRO の名称変更問題でした。寡聞にして知らなかったのですが、IUFRO News でこの問題が取り上げられていたそうです。IUFRO の F は今は Forestry ですが、これを Forest に変えることについてへの recommendation をするかどうかというものでした。IUFRO News の記事の内容は、IUFRO 会員が現在減少中なのは、Forestry という言葉にアイデンティティを感じない分野で森林に関する研究が多く行われているからではないだろうか、そのような人が Forestry を名称に含む IUFRO に参加するはずがないではないか、というものです。日本林学会の名称変更問題というのがつい最近あったので興味深かったのですが、いろいろな発言がありました。Forest と Forestry の意味するものについては理解がさまざまあり、またこの用語が英語であるために、ネイティブスピーカーとそうでない人にとって感じ方が異なるという意見、Forestry が貴重な自然環境を土足で踏みしめる "dirty boots" という印象を持たれているので、その言葉自体をもっと正確に印象よくするような努力をすべきであるという意見などです。結局、このワークショップでは recommendation をしない、ということになりました。

・エクスカーショ

6月10日はエメンタール方面へのエクスカーショがありました。遠景にアルプスを望む山腹に、よく手入れされた畑と single tree selection system で施業されている林の中に農家が散在するという風景(写真-4)がこの地方の典型的な風景だそうです。世界的に有名なエメンタールチーズはこの地方の特産です。

70年近くデータをとり続けている selection forest の固定プロットの見学(写真-5)と典型的なエメンタール

の農家(写真-6)への訪問がエクスカージョンの内容でした。プロットの見学中に雨が本降りになってきて早々に退散しなくてはならなかったのが残念でしたが、スイスでは林も畑も町も非常に手入れが行き届いているというのが印象的でした。農家訪問では、本場のエメンタールチーズやパン、ソーセージ、ワイン、シュナップスという強いスピリッツなどをごちそうになりました。農家は家畜小屋と納屋、居住部分が一体となった写真の通り



写真-4 エメンタール地方の風景



写真-5 林内の固定プロットで解説を聞く参加者



写真-6 エメンタール地方の農家

大変大きなものでした。まあ食べてください、と次々と食べ物、飲み物をすすめるようすはどこへ行っても変わらない風景です。Haus der Stille でも思ったことですが、食事は割合簡素で、料理も品数はあまりできません。ただ、量は多く、またチーズやパンは必ず数種類、固まりのまま用意されていて、好きなだけ自分で切り取って食べるようになっています。チーズの苦手な人にとっては、スイスの旅はつらいものになるかもしれません。

SylvaVoc 打ち合わせ

今回の旅行のもう一つの目的は、ウィーンの IUFRO 本部で SylvaVoc と SylvaVoc-J との調整を行うことでした。12 日に行われた打ち合わせの参加者は、SylvaVoc 側から Renate Prüller 女史、技術担当の Niels Brunn de Neergaard 氏、日本語に関するアドバイザーの Ewald Titsh-Noufe 氏、日本側からは私たち二人でした(写真-7)。松本氏が MEXFT '98 で報告したように、FTD で日本語などの 2 バイト系文字を扱うためにはいろいろな問題があります。そこで、FTD の開発にあたっては、特に日本語の対応に関して、以下の 3 つのステップを踏んで行うことに合意しました。Step 1: ローマ字表示によるもの、Step 2: ローマ字、ひらがな、漢字の並列表示によるもの、Step 3: その WWW 公開によるもの。ワークショップでデモが行われた FTD には日本語取り扱いの機能がありませんでしたが、今後日本語表示のためのデータ構造や表示フォームの変更に際し SylvaVoc 側は積極的に対応することも確認しました。また、データベースの開発を優先させ、WWW 公開における日本語表示については、今後のインターネット技術の進展を見ながら判断するというにしました。松本氏が報告の中で提案した(1')の方法(Delegate Server を利用する方法)を IUFRO 本部の PC で試して



写真-7 IUFRO 本部での打ち合わせ

みたのですが、Web ページ上の漢字やひらがながドイツ語 Windows の上で表示されるのを見たときには、ちょっと感動しました。簡単な表示だけだったらこれでもいけるのではないか、というのがその時の私たちの感想です。

そのほか、デモ版の FTD に対する意見交換を行いました。Prüller 女史から、FTD の 3 カ国語版を 7 月中にも完成させる予定で、ベータ版としてユーザにコメントを求めたいこと、定義に関しては各国語に対してその言語で入力する予定であること、画像や数式なども入力できるようにしたいこと、用語や定義の引用元を明示するようにしたこと、などの説明がありました。

おわりに

会議のタイトルを翻訳しようとして、“Multilingualism”と“Terminology”をどのように日本語にしたらよいかを悩んでしまいました。前者は単純に多言語というだけでなく、上にも書いたように、その背後にあるさまざまな違いを認め、理解しつつ協力しあおうという意味が込められているように思います。また後者は、用語とか術語という意味ですが、単純にそのように訳してし

まってよいのだろうか、今回の会議に参加した印象から思ったわけです。（といいつつ、結局すでにお読みになったような訳になってしまいました。）そのような筆者の思いを少しでもこの拙文からお感じくだされば幸いです。

会議の最終日がたまたま私の誕生日でした。アルプスの見える Haus der Stille の中庭で、会議後も残っていた方々に祝っていただいたことは忘れられない思い出になりそうです。

ワークショップ後の情報としては、MEXFT '98 については、概要、プログラム、参加者等を WWW (URL は <http://www.wsl.ch/wsldb/mexft/mexft.html>) から知ることができます。ワークショップのプロシーディングスは 1999 年春に出版の予定ですが、上記の MEXFT '98 Web ページで電子版のアブストラクトを見ることが可能です。また、ベータ版の FTD も WWW で公開されており、<http://iufro.boku.ac.at/iufro/sylvavoc/svdatabase.htm> で試すことができます。9 月中には出版できるかといった Ford-Robertson 改訂版については、まだ IUFRO-J 事務局に届いていないそうです。

<IUFRO-J News への寄稿のお願い>

会員の皆様のご協力により「IUFRO-J News」の発行も順調に進んで参りました。これからもニュースの内容を充実させるために、IUFRO の研究集会などの開催予定や参加した集会の内容紹介など、会員に広く知らせたい事柄について記事をお寄せください。また、研究集会などに参加予定、または参加された方を紹介いただければ、事務局から執筆のお願いをすることもできます。会員相互の情報交換の場として「IUFRO-J News」をどうぞご活用ください。

(事務局)

IUFRO 第3部会中間役員会議報告

京都大学大学院農学研究科附属演習林 芝 正己

はじめに

本年7月13日～15日の3日間にわたって、スイス・チューリッヒの連邦工科大学 (Eidgenössische Technische Hochschule Zürich: 以下 ETH と略記) において、IUFRO 第3部会中間役員会議 (IUFRO Division 3 Officer's Mid-Term Meeting) が開催された。日本からは、北川勝弘氏 (名古屋大学) と筆者が出席したのでこの会議の内容について報告する。なお本稿の冗長を避けるために、分科会名・役員名・所属機関名等については以下の通りに略記する。

Division 3: Div. 3 Research Group: RG Working Party: WP

Coordinator: C Deputy Coordinator: D

CIFOR: Center for International Forestry Research

NFRI: Norwegian Forest Research Institute

FFRI: Finnish Forest Research Institute

会議概要

IUFRO 世界大会の中間年に当たる本年、ETH の Heinemann 教授 (3.06.00/C) がローカルホストとなり、「フィンランド・タンペレ大会以降の Div. 3 の活動状況」、「2000 年のマレーシア・クアラルンプール大会に向けての準備事項」等を主な議題として、3 日間にわたる会議が行われた。同伴者を除く参加者数は 26 名 (Div. 3 の RG/WP 全役員数: 98 名) で、この中には今回特別にオブザーバとして、Burley IUFRO 会長の参加があった (表-1)。

13 日及び 15 日両日の本会議を含む全日程の概略は次の通りである。

12 日: 夕方 ETH に集合後、Forsthaus Waldegg 演習林に移動して歓迎レセプション

13 日: 終日会議・会議後 Heinemann 夫人のエスコートによる市内散策

14 日: エクスカーション (Canton Schwyz)

- ・高蓄積林分の森林施業と気象災害に関する現地見学 (Oberiberg)
- ・針広混交林の択伐施業と薪炭材架線搬出作業見学: Koller 303/グラップルローダシステム

(Ibergereg)

- ・峡谷地森林でのヘリコプタ全幹材搬出作業見学: HELOG 社製 K-Max K-1200 型 (Bisisthal)

- ・ルツェルン市内観光及夕食会

15 日: 終日会議・会議後解散

協議事項

Div. 3/C Dykstra (CIFOR, Indonesia), Heinemann (3.06.00/C) 両氏の開会の挨拶、ETH の紹介等に引き続き、以下の内容が協議された。

1. 会議協議事項 (AGENDA) の承認
2. 前回役員会議 (1995 年 8 月 10 日タンペレ IUFRO 世界大会) 以降の問題事項の協議
 - 1) Div. 3 の RG/WP の新旧ナンバリングの変更確認

表-2 に示すように、従来 RG/WP に付けられていた「S」・「P」のアルファベットは全て削除し、ナンバーのみの表記とする。3.09.00 (旧 P 3.06-00: Economics and harvesting of thinnings) については、活動実績がほとんどないことから、2 WP の新ナンバーへの変更は保留し、本会議における Div. 3 の組織再編問題部分で改めて協議する。RG のナンバー変更理由について、Dykstra 氏より各 RG の C/D に対して説明が求められた。各役員から十分な回答は得られなかったが、Div. 3/D Mrs. Furuberg-Gjedtjernet (NFRI, Norway) が代表して、「旧来のナンバリング方式自体がその根拠が曖昧であった」旨の説明を行った。本件についても、Div. 3 の組織再編の問題と併せて協議することとなった。

- 2) IUFRO Net 及び Div. 3 Web Pages の整備状況について

RG/WP の IUFRO Net 及び Web Pages の利用・整備状況 (活動内容紹介・イベント・出版物・ニュースレット・外部リンク性等) について、Div. 3 事務局からの事前調査の資料により説明がなされた。現在、RG/WP の 3 割程度が何らかの形で利用しているが、この数字は Div. 3 全体としては不十分であること、今後マレーシア大会

表-1 役員会議参加者一覧

Name	First Name	Nation	IUFRO Group
1 Costa Filho	Perminio Pascoal	Brazil	3.1102 C/3.11.00 D
2 Heinimann	Hans-Rudolf	Switzerland	3.06.00 C
3 Lipoglavsek	Marjan	Slovenia	3.07.00 D
4 Sever	Stanislav	Croatia	3.06.00 D
5 Mattsson	Anders	Sweden	3.02.03 C
6 Daugavietis	Maris	Latvia	3.10.02 C
7 de Souza	Amauri Paulo	Brazil	3.07.05 D
8 Hyttinen	Pentti	Finland	3.08.00 C
9 Kanninen	Kaija	Finland	3.07.02 C
10 Karr	Robert.	USA	3.11.03 D
11 Lauhanen	Risto	Finland	3.11.00 C
12 Mikkonen	Esko	Finland	3.04.00 C
13 Pertlik	Ewald	Austria	3.06.02 C
14 Arnott	James T.	Canada	3.02.03 D
15 Dahlin	Bo	Sweden	3.10.05 D
16 Kellogg	Loren	USA	3.10.00 C
17 Menzies	Mike	New Zealand	3.02.00 C
18 Thompson	Michael A.	USA	3.04.02 D
19 Kitagawa	Katsuhiko	Japan	3.04.01 D
20 Shiba	Masami	Japan	3.04.02 D/3.06.01 D
21 Abeli	Willbard S.	Tanzania	3.06.00 D
22 Burley	Jeff	UK	IUFRO President
23 Guglhoer	Wolf	Germany	3.06.01 C
24 Staudt	Frits J.	Netherlands	3.07.00 C
25 Dykstra	Dennis	Indonesia/USA	3.00.00 C
26 Furuberg-Gjedtjernet	Ann Merete	Norway	3.00.00 D

に向けて会員間の密な連絡が不可欠となること等の認識で一致し、先ず、Div. 3 の Web Pages を早急に整備することが確認された。これに関して、Web Pages のフォーマットをどのように統一するかについて議論がなされ、これまでの整備実績から「3.02.03: Nursery Operations」のフォーマットを基本スタイルとすることとなった。この作成作業については、現在、Div. 3 の事務局 (CIFOR, Indonesia) の体制が不十分なことから、当面、各 RG/WP 毎に行うことが了解された。

この問題と関係して、IUFRO 世界大会以外に開催される RG/WP の会議での Proceeding の発刊方法について、特に、財政面やオーソリティの面からの指摘が複数の役員からあった。すなわち、会議後の Proceeding が発刊されない (Abstract のみ) ・会議後相当期間経てやっと発刊される・発刊部数が限定されている (参加者

のみの配布の場合が多く、Div. 3 全体の研究情報源として機能していない) ・会議主催者 (RG/WP) と発刊スポンサーとの関係の不明瞭さ (研究業績としての対外的なオーソリティ) ・Proceeding の内容やスタイルの貧弱性等である。RG/WP の会議頻度は、最近になって相当高まってきており、会議の質と費用の効率性を表す一つのバロメータとして、Proceeding の在り方を考え直す時であるとの意見が多数であった。具体的な提案として、Heinimann (3.06.00 C) 氏が ETH での事例を挙げて紹介した:「学内で出版される学術雑誌、博士論文、卒業論文、学外の一部の研究所・試験場報告等は、ETH の Web Pages に掲載公表されており、随時閲覧が可能であり、必要な場合には有料のハードコピーサービスが受けられる」というものである。いずれにしても、会議参加の意義として、Proceeding の発刊は第一義的なものであり、「財政面、公開性、オーソリティ」の条件を満たす一つの選択肢として、ETH の試みは参考になる

表-2 IUFRO Div. 3 RG/WP 新旧ナンバリング・名称の対比

Research Group		Working Party		Name
New	Old	New	Old	
3.02.00	S 3.02-00	Operational methods in the establishment and treatment of stands		
		3.02.01	S 3.02.01	Stand establishment operations
		3.02.02	S 3.02.02	Stand treatment operations
		3.02.03	S 3.02.03	Nursery operations
3.04.00	S 3.04-00	Operational planning and control ; work study		
		3.04.01	S 3.04-01	Planning and control
		3.04.02	S 3.04-02	Work study, payment, labour productivity
3.05.00	S 3.05-00	Forest operations in the tropics		
3.06.00	S 3.06-00	Forest operations under mountainous conditions		
		3.0601	S 3.06-01	Accessibility of mountain forests
		3.0602	S 3.06-02	Harvesting in mountain forests
3.07.00	P 3.03-00	Ergonomics		
		3.07.01	P 3.03-01	Physical work environment
		3.07.02	P 3.03-02	Psycho-social problems
		3.07.03	P 3.03-03	Health and safety
		3.07.04	P 3.03-04	Ergonomics in the timber industry
		3.07.05	P 3.03-05	Ergonomics assessment of mechanization
3.08.00	P 3.04-00	Small-scale forestry		
3.09.00	P 3.06-00	Economics and harvesting of thinnings		
		N/A	P 3.06-01	
		N/A	P 3.06-02	
3.10.00	P 3.07-0	Harvesting, wood delivery and utilization		
		3.10.01	P 3.07-01	Harvesting and product quality
		3.10.02	P 3.07-02	Harvesting and utilization of tree foliage
		3.10.03	P 3.07-03	Harvesting and tree processing
		3.10.04	P 3.07-04	Harvesting and forest energy
		3.10.05	P 3.07-05	Wood delivery
3.11.00	P 3.08-00			
		3.11.01	P 3.08-01	Site impact caused by forestry
		3.11.02	P 3.08-02	Forest operations on sensitive sites
		3.11.03	P 3.08-03	Methods and techniques for site protection and improvement

と考えられる。上述の Div. 3 の Web Pages の整備はその第一歩として積極的に進められる必要があろう。

3. IUFRO 表彰事項について

当該事項に関する内容を総括すれば次の通りである。

- ・P.O. Nilsson (前 Div. 3/C, Sweden) を “IUFRO Distinguished Service Award” の候補者として 2000 年のマレーシア大会で推薦することが承認された。
- ・“Honorary Membership : 名誉会員” 候補者についても、来年の IUFRO 理事会までに推挙できるように進めたい旨の説明があった。ちなみに、Div. 3 関係の名誉会員は、元 IUFRO 会長

Samset (NFRI, Norway) 氏のみである。

- ・表彰規定の一部改定、新設表彰項目の紹介。

Honorary Membership : HIM (規定変更なし)

Distinguished Service Award : DSA (規定変更なし)

Certificate of Appreciation : CA (規定変更なし)

Scientific Achievement Award : SAA (規定の一部改定)

Outstanding Doctoral Research Award : ODRA (新設)

Best Poster Award : BPA (新設)

新設の2表彰項目の内、ODRAは博士号取得後5年以内の若手研究者の研究業績に対して(賞状・メダル・賞金1200US\$)、BPAはIUFRO世界大会での卓越したポスター発表に対して(賞状・メダル)それぞれ授与される。なお、資格・推薦・選考基準等についての詳細は、「IUFRO NEWS」に掲載の予定である。

4. 2000年IUFRO世界大会(Forests and Society: The Role of Research/森林と社会:研究の役割)について

1) 大会概要及びDiv. 3合同部会(Subplenary Session)

1997年9月の第36回IUFRO理事会(イタリア・ローマFAO)決定によるIUFRO世界大会の日程・会議概要が以下の通りに紹介された。

- ・大会日程: 8月7日(月)・8日(火)・10日(木)・11日(金)・12日(土)
- ・5 Keynote Addresses (基調講演): 9:00~9:45
- ・15 Subplenaries (合同総会): 10:15~12:30
- ・20 Concurrent sessions (RG及びDiv.分科会): 大会日午後

本役員会議で協議された点は、上記15合同総会(表-3)に、Div. 3の参加がまったく予定されていないことであつた。Dykstra氏より今後の参加の可能性(Div. 3単独あるいは合同総会方式)について再検討したい旨の要請があつた。

これについて、RG単位の小委員会で検討した結果、以下の3代替案(優先順)が示され、Dykstra氏が次回のIUFRO理事会で提案する事となった。

- ・5. A vision for the Futureに参加: この場合、3予定総会とは別にDiv. 3で単独総会を行う
- ・4. Changes in Environment and Societyに参加: この場合、当該総会テーマに、"Technology"を付加して「4. Changes in Environment, Technology and Society」として、3予定総会とは別にDiv. 3で単独総会を行う
- ・1. Sustainable Management of Forests in the Tropics: Water and ForestsのTask Force 6(リーダー: 次期Div. 1/C Lisa Senerby-Forsse, Sweden)との合同総会方式

表-3 IUFRO理事会(1997年9月)提案による15合同総会(Subplenaries)

- | | |
|----|--|
| 1. | Sustainable Management of Forests in the Tropics |
| | ・ Water and Forests (T6) |
| | ・ Forests Gene Resources (T8) |
| | ・ IFF (Burley IUFRO President) |
| 2. | Forests and Society |
| | ・ Wood products (D5) |
| | ・ Non-wood Products (D5) |
| | ・ Services of Forests (D6) |
| 3. | Cultural Diversity in Forest Management |
| | ・ Forest Management (D4) |
| | ・ Agroforestry (D1) |
| | ・ Mountain Development (T2) |
| 4. | Changes in Environment and Society |
| | ・ Environment (D8 & T5) |
| | ・ Social Issues in Forestry (D6) |
| | ・ Interactions (D8 & D6) |
| 5. | A vision for the Future |
| | ・ Forest Science and Policy (D6) |
| | ・ Networking and International Cooperation (EEB) |
| | ・ Regional Scenarios (Tropics)-Latin America, Africa, Asia |

T: Task Force (強化研究プロジェクト班) D: Division

EEB: Extended Executive Board (拡大理事会)

Div. 3としては、現時点では第1案を念頭に、Dykstra氏とRG/Cが具体的なテーマを協議していくことになった。

2) IUFRO 世界大会での Div. 3 の RG 分科会 (RG Sessions) について

大会期間中に開催される RG 分科会の問題点 (分科会数の過多、分科会間のテーマの独立性、開催時間の重複、参加者数の偏り・分散、協議事項の決定過程の複雑性等) が指摘された。限られた大会期間での「RG 分科会討議の効率化」と「Div. 3 全体での問題点の総合化」の方法を具現化する事が必要であるとの認識で一致した。これに関して、Heinimann氏が、「Div. 3 全体としての分科会テーマを予め設定し、各 RG はテーマ別に分科会メンバーとなる」一種のトップダウン方式を提案し、マレーシア大会での分科会テーマとして、以下の4つを示した。

- ・ The Future of Forest Work : 森林作業・労働の将来
- ・ Logistics of Key to Competitiveness : 競争環境に対する後方支援基盤方式
- ・ Technology Forecasting and Assessment : 作業技術の予測とその評価
- ・ Social Impacts of Technology : 作業技術の社会的影響

協議の結果、Div. 3 の RG 分科会方式として、Heinimann氏の案を採用し、同時に、マレーシア大会では、上記の4テーマを軸として協議することが決定された。

3) IUFRO の名称変更について

既に、鈴木 IUFRO 理事 (東京大学) が「IUFRO-J News (No. 62)」で紹介されているが、マレーシア大会以降、IUFRO の名称を以下通りに変更する旨の説明が Burley IUFRO 会長からあった。

IUFRO : International Union of Forest Research Organization 国際森林研究機関連合

4) 1998~2000 年の Div. 3 関係会議の開催・予定状況等について

上記期間の開催済み及び予定会議について、資料 (表-4) により説明があった。特に会議のキャンセル等の申し出はなかったが、日本関係では、本年 10 月 19~23 日に開催される「IUFRO Div. 8 Conference, Kyoto University : Environmental Forest Science, 3.06.00 Ad Hoc Session "Environmental Aspects in Forest Transportation Infrastructure (Session organizers: Hein-

mann (3.06.00/C)/Shiba (3.04.02/D・3.06.01/D))」の紹介と、森林利用学会小林会長 (東京大学) から、本役員会議前に開催の招聘依頼があった、「(仮称) 3.04.00, 3.06.00 and 3.07.00 Joint Seminar, November 2002, FFPRI Japan」が日本役員から提案されている旨の説明があった。なお、この Joint Seminar については、関係の RGs/C (Mikkonen, Finland/Heinimann, Switzerland/Staudt, Netherlands) と事前に協議し一応の了解を得ているが、後述する「Div. 3 の RG/WP の再編成」の問題、「中国南京大学での 2001 年開催予定の Joint Seminar : 3.04.00」、「Tanzania Sokoine 農科大学での 2002 年開催予定の Joint Seminar : 3.06.00」との絡みで、現時点では流動的な部分がある。

5) Div. 3 の RG/WP の再編成について

本稿の中でも既に何度か触れてきたが、Div. 3 の RG/WP の機構について、多くの役員から問題点の指摘があり、本会議の主要協議事項として集中審議する事となった。各役員が指摘した問題点を総括すれば以下の通りである。

- ・ 9 RGs 及び 22 WP's の数は Div. 3 の規模からみると多すぎる
- ・ いわゆる "Sleeping Group" と呼ばれる活動を行っていない RG/WP がある
- ・ RG と WP の関係が必ずしも判然としていない
- ・ RG/WP での活動領域の重複・分散化
- ・ RG/WP 単位での活動の限界 (参加会員数・財政面・会議開催能力等)
- ・ 現状の RG/WP 編成と Div. 3 が取り組むべき今後の活動テーマとの不整合
- ・ RG/WP 毎の活動成果が Div. 3 全体に還元されていない
- ・ 各国の森林資源利用状況の変化に対する Div. 3 としての役割の明確化

この問題に関しては、本役員会議に先立って Dykstra氏より Heinimann氏に事前に素案の作成が依頼されていたこともあり、会議においてはこの素案を検討することとなった。Heinimann氏の説明は、改組案の根拠となるコンセプト "Problemfelder der forstlichen Betriebs- und Produktionswissenschaft : 林業的経営及び生産科学の問題領域" (図-1) に始まり、現 RG の部分統合、名称変更を含めた改組案 (表-5) の提示で締めくくられた。その内容を要約すると、

- ・ 3.04.00 (Operational planning and control ; work study) 及び 3.09.00 (Economics and

表-4 Div. 3 関係会議の開催・予定状況 (1998~2000 年)

Date	Place	Thema	Organizer/IUFRO Units
1998			
1) Feb 17	Rotorua, New Zealand	Human Factors in Forestry	3.07.00
2) Feb 24	Rotorua, New Zealand	Increasing Log Transport Efficiency	3.10.05 : NZFIE : LIRO
3) May 24-29	Curitiba, Brazil	Seminar on Harvesting and Wood Transportation	Federal Univ. Parana : 3.11.01
4) Jul 13-15	Zurich, Switzerland	Div. 3 Mid Term Meeting	All Div. 3 officers
5) Aug 16-20	Vancouver, Canada	Integrating Environmental Values into Small-scale Forestry	3.08.00 : UBC : EFI
6) Aug 24-25	Canada	Third Int'l Conference on Forest Vegetation Management	3.11.00 : 3.11.03
7) Sep 9-13	Banska, Slovakia	Seminar on Improving Working Conditions and Increasing Productivity in Forestry	ECE : FAO : 3.00.00
8) Sep ?	Ireland	Meeting on Management Alternatives of Thinning Stands from the Harvesting and Economical Point of View	3.09.00
9) Sep ?	Germany	Soil, Tree and Machine Interaction Part 2	3.11.01
10) Oct 19-23	Kyoto, Japan	Ad Hoc Session "Environmental Aspects in Forest Transportation Infrastructure"/IUFRO Div. 8 Conference "Environmental Forest Science"	3.06.00 : 8.00.00
1999			
1) Mar 28-Apr 1	Corvallis, USA	The Int'l Mountain Logging and 10th Pacific Northwest Skyline Symposium	3.06.00 : 3.07.00 : 3.10.00 : Oregon State Univ.
2) Jun 9-14	Pietermaritzburg, South Africa	Timber Harvesting and Transport Technologies for Forestry in the Millenium	3.10.00 : FESA
3) May 4-7	Ireland	The Thinning Wood Chain, Management, Harvesting and Economics	3.09.00
4) Sep ?	Opatija, Croatia	Emerging Harvesting Issues in Technology Transition at the End of the Century	3.06.00 : 3.07.00
5) Sep 13-17	Feldafing, Germany	Forest and Site Alterations Due to Harvesting Operations: Agents, Impacts and Consequences	3.11.01 (FORSITRISK 2) : ECE/FAO/ILO
6) Sep 20-24	Pessac, France	The Forest Operation of Tomorrow	3.07.00 : ECE/FAO/ILO
7) Sep ?	Belem, Brazil	New Approaches to Integrated Management of Primary and Secondary Forests for the 21st Century	3.05.00 : 1.05.08 : 1.07.05 : 6.01.00 : 8.01.00 : 8.07.00 : CATIE : WWF : CIFOR
8) Sep 28-30	Auburn USA	The Interaction between Seedling Stock Size and Plantation Silviculture and Productivity/Nursery and Stand Establishment Operation for Difficult Sites (II)	3.02.03 : Auburn Univ. Sch. For. : 3.02.00

harvesting of thinnings) は、何れも広義には経営管理主体の“意思決定: Decision making”に関する部分を取り扱っており、統合して新たな RG とする。なお名称については、“Decision making”という単語を含むものとする

・タンペレ大会で結論が持ち越された 3.08.00 (Small-scale forestry) の所属に関して、新編成では一応除外して考える

・RG 下の WP についても名称変更を含めて統

廃合する

・新体制はマレーシア大会から発足するものとする

以上の提案に対して若干の異論もあったが、基本的には賛成の方向で纏まった。これを受けて、本改組案がマレーシア大会で提案・承認されるように、Dykstra 氏と RG/C が具体的な結めに入ることとなり、来年 9 月の IUFRO 理事会までを一応のデッドラインとする事が了承された。

5. 2000~2005 年の IUFRO Div. 3 の役員 (Office

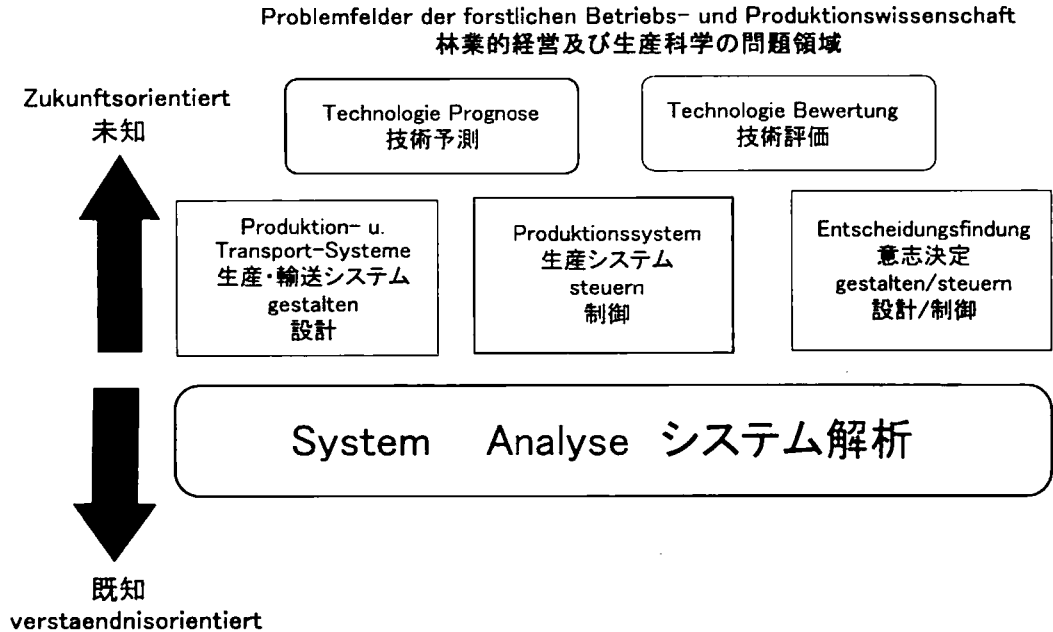


図-1 Div. 3 再編成のための問題領域のヒエラルヒー

表-5 Div. 3 RG の再編成案

RG Unit	Name: tentative keywords
3.02.00	Stand establishment/Treatment
3.05.00	Forest operation/Tropics
3.10.00	Forest operation/Trafficable terrain
3.06.00	Forest operation/Mountainous terrain
3.04.00	Decision making/Management
3.09.00	統合
3.07.00	Human factors
3.11.00	Environmental management

holders) 改選について

IUFRO 規定による役員任期は 2 期 (10 年) までとなっており、タンペレ大会で任命された Dykstra 氏が引き続き Div. 3 の部会長を行うことが了承された。

現在 2 名の Div. 3/D : Ann Merete Furuberg - Gjerdtnet (Norway) 及び William Cordero (Bolivia) 両氏に関して、後者が全く活動できない状況であり、事務的負担量が限界であること、本役員会議で何らかの対応を検討してほしい旨の要望があった。「現 Div. 3/D 1 名の入れ替え」、具体名を挙げての「3 人目の Div. 3/D の追加」案が出されたが結論は得られず、Dykstra 氏に一任することとなった。

RG/WP の役員 (C/D) 改選については、上述の通り Div. 3 の改組案が採択されたことを受けて、本役員会議では取り上げないこととなった。

6. シンポジウム : 2 Voluntary Papers 発表

- Biodegradable oils in the forestry environment : 林業生産環境下の生物分解性油脂について (Risto Lauhanen, 3.11.00/C, FFRI, Finland)
- Croatiaoan forestry and harvesting issues in technology transition : クロアチアの林業と技術変化に伴う収穫作業の諸問題 (Stanislav Sever, 3.06.00/D, Univ. Zagreb,

Croatia)

以上、スイス・チューリッヒのETHで開催されたIUFRO第3部会中間役員会議の内容について、その主要部分のみを纏めて報告した。会場となったETHの本部建物は、荘重さの中に近代的設備を併せ持ったものである。その時間の積み重ねを大事にする姿勢の中に身を置くと、あのアインシュタイン博士が教鞭をとった時代に、いともたやすく遡って行くことができる。そんな建

物の中で勉学に励めるETHの学生は幸せ者である。

会議全体のスムーズな進行と細部に渡る気配りを発揮して下さったHainimann教授に感謝しつつ、マレーシア大会の近づきを実感しながら帰国の途についた。

なお、本会議出席に際しては、森林利用学会「国際会議出席補助金」の交付を頂いた。ここに記してお礼を申し上げる。

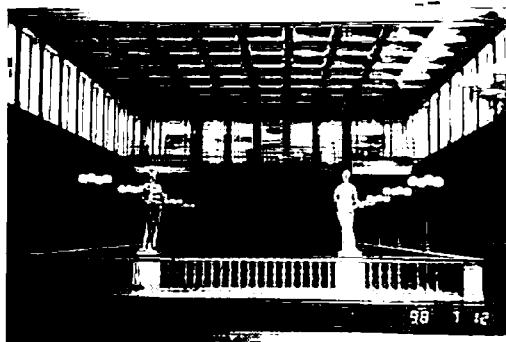


写真-1 会場となったチューリッヒ連邦工科大学 (Eidgenössische Technische Hochschule Zürich: ETH) の本部建物の内部



写真-2 エクスカーション (ヘリコプタ全幹材搬出作業見学: Bisisthal) での一風景: Div. 3/C Dykstra氏 (前列左) と Burley IUFRO 会長 (中央)

IUFRO・Subject Group S. 6.07 “History and Forest Resources” 参加報告

元林業試験場経営部 小林 裕

標題の International Conference について、昨 97 年 5 月に主催国 Italy の Firenze (Florence), Accademia Italiana di Scienze Forestali より参加賛否の知らせを受けた。私は昨年本を出版していたので、報告したいと思い、要旨を提出した。

数回事務連絡を受け、この間本年 2 月には参加費 14 万リラ (日本円 10,276 円) を払い込み、5 月 20 日 (水) より 23 日 (土) まで、オブショナル・エクスカーションまで入ると 24 日 (日) まで、同所と近郊で開催されるものに参加することにした。最終日 23 日は午前 Arezzo province の GARGONZA 城付近の森林へ小研究旅行である。24 日は Firenze 郊外にある Vallombrosa の森林と修道院への小旅行である。

私は過去 3, 4 回の会で報告したことがあるが、いつもながらかかる会合の準備にあたる人は少数精鋭主義で、渾身に準備、運営されているのを感じる。今回は Istituto di Assestamento e Tecnologia Forestale, Università di Firenze の Dr. Mauro Agnoletti (マウロ・アグノリッティ) 氏がその任にあたった。ユフロ公用語は英独仏語だと思っていたが、今回は英、伊 2 ヶ国語だった。イタリアの研究者を除き、英語を用いていた。素人らしいが、別室に女性の同時通訳 2 名を置き、受信レバーを貸してくれ、報告が直ぐ分かるように努力された。イタリア人には英語をイタリア語に同時通訳した。参加者は当然イタリア人が多かった。参加者全員は 130 名程度、うち報告者約 90 名。

20 日 (水) 午前 9 時より先ずイタリア林学会の Mancini 会長のあいさつで始まった。20-22 日 3 日間の報告の仕組みは以下の通りであった。毎日午前は前半 (9 時-10 時 40 分) 4-5 報告、各 20 分、討論 20 分、後コヒーブレイク 20 分。後半 (11 時 20 分-12 時 40 分) 4 報告、各 20 分、討論 20 分。午後 1 時-2 時半昼食。午後は 14 時 30 分から報告時間 15 分で始まったが、20-22 日の 3 日間、A 室と B 室の場所に分かれ、多数の報告をこなした。その前半は 14 時 30 分より入り 5 報告を行い、15 時 45 分から 30 分の討論、16 時 15 分から 15 分間のコヒーブレイク。午後の後半は、A、B2 室に分かれて、夫々 3-5 報告をこなし、17 時 45 分討論に入った。ただ

21 日午後 B 室では後半、最後の時間 17 時 30 分よりポスター・セッション 3 報告があった。また 18 時を目途に毎日報告は終了するが、日によっては事務連絡があった。23 日午後 (14 時 30 分) は 5 報告が夫々 20 分ずつ GARGONZA の一室で全員出席の統一報告であった。例えば Dr. Hermanin (イタリア) の『『森林』という術語の起源について』とか、Dr. Küster (ドイツ) の『林地の展開と先文化史』というものである。

私は 2 回目の 21 日午後 A 室で 16 時より 15 分間、‘‘Forest, Wood Culture’’ theory in Japan’ と題して報告した。現在の自然、森林荒廃の原因が、合理主義、民主主義、自由主義、近代主義、科学技術等であり、そ



Mancini 会長のあいさつ



会場の庭園でコヒーブレイク

の土台にキリスト教があるという日本における最近の一部の傾向は、誤った考え方である点を論証した。なお、この時間帯の共通テーマは「文化情況」であり、Dr. John Dargavel (オーストリア) が司会した。他に4報告があり、インド1、イタリア2、アメリカ1であった。5人の中インド人と、イタリア人1人は、座長から再三報告時間厳守の警告紙片をもらったが、堂々(?)と夫々30分話した。このため討論時間はなくなり、コーヒブレイクに入った。私の報告に対し、1婦人研究者から共感があった。

この林業史部会は、林業、森林に関するすべての歴史的事実を報告する幅広いものであり、方法論も、研究範囲も歴史性をもっていなければならないと思われる。ただ今回の round table では教育と研究に林業史の方向づけをしようとしていたが、とも角まとまりのあるものに導くことではないように思われた。

23日土曜日は、前述のように Firenze の郊外にある古城付近への研修旅行であった。そこは私有林小経営地だった。丁度この私有林の作業舎では、1人の老作業員が、日本の竹ぼうきで言えば、掃く部分にさらの穂をつけるが、その部分にここでは広葉樹の小枝を、手おので適当な長さに切断してつける作業をしていた。多数の報告の中に、いくつかの木炭の問題もあった。日本では極めて珍らしくなった生産部門が、イタリアでは結構話題になったり、木炭とか森林副産物として事業になっている面がある点を気付かされた。

午後からの統一報告については既に述べた。

24日、日曜日雨降りで寒かったが、optional excursion は近郊の Vallombrosa の森林と、abbey (カトリック修道院) の見学旅行であった。林内に入り、樹齡30年前後の人工造林地を見た。終了後 abbey にもどり、院内各室の説明を受けた。

19日より6日間 Firenze の駅前ホテルにいて、バス停から会場に通うほかは、ドッオーモ(聖母教会)、アル



Vallombrosa の人工林と参加者

ノ川、ヴェッキオ橋を見るだけに終わった。「神曲」を書いたダンテのかつてかかわった町としての片りんには接することが出来なかった。ただキリスト教の愛より出た聖フランチェスカの着衣に小鳥が止まること、すなわち今日自然保護に密着しているアッジジの同教会に日帰りで行くことが出来た。

英語力はつたなかったが、ユフロで知合った以前からの2,3の研究者に会えたり、スペインの研究者をはじめ多くの研究者から話を持ち出された。特に今回感じた点は、各国の研究者も英語(先述のようにイタリア人以外殆んど英語を使用していた)ということになると、結構余り上手でない。逆に言うと、このような国際的研究交流では言葉の巧拙より、話題に聴することなく対応するという心構えの方が重要だと悟ったものである。

連日終了時間が遅いことに気付くのであるが、現地は夏時間を採用していることなどにより、実際日の暮れるのは午後8時半か9時であった。

なおこの報告は自分がユフロ分科会に報告参加した点を中心に述べたものである。

(1998年7月17日)

IUFRO-J News No. 65 平成10年12月15日
国際林業研究機関連合-日本委員会事務局
茨城県稲敷郡基崎町松の里1 森林総合研究所内
TEL 0298-73-3211 (内線232) (編集・発行)